

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18・38	・「生活」と「介護」の区別ができていないため、その人にとっての「生活」を奪っている場面がある。	・「暮らしの場」で働いていることを理解し、「共に暮らす」ための視点を養う。	・奪っているおとしよりの「生活」に気づくことから始める。 ・自覚している者の実践や関わりを共有する意識と場を作っていく。	12ヶ月
2	12・13	・職員一人一人がやりがいをもてること。	・おとしよりと、どのように関わり、暮らしてもらいたいかの目標をもてる。 ・小さなことでも共有できる場面が増える。	・実践したことに対して、様々な形で評価でき、そしてその実践を、次に繋ぎ、活かされる仕組みを作る。	12ヶ月
3	2・20	・事業所自体は地域の一員となりつつあるが、個人が「共に暮らす住民」として生活しているとはいえない。	・事業所が地域で有名になるのではなく、個人が地域で有名になる。	・日常的に散歩やお店などを利用する中で、個人が主体になって関わっていただけるように、自然な形で繋いでいく。職員が出すぎずに、その方個人を知ってもらえるように努める工夫をし、取り組む。	12ヶ月
4	19・26	・御家族の「思い」を充分にお聴きすることができていない。	・ご家族との何気ない会話も大切にし、その中から見えてくる様々な「思い」や「気持ち」を知り、共有できるようにする。	・身体面と精神面の区別、ケア留意点と具体的内容等をきちんと書き分ける。・計画作成にあたっての意見交換を3ヶ月に1度行う。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。